
ふたつの世界

あくた咲希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふたつの世界

【Nコード】

N9040Y

【作者名】

あくた咲希

【あらすじ】

一花が迷い込んだのは、荒廃した自分の町。そこは異世界、パラルワールド。そこで出会った斗真と、妹の由真とともに、こちらの世界へ戻ってしようとしたのだが……。

第一章・陰と陽

第二章く構想中

廃図書館のトイレの屋根は、半分以上が崩れていた。見上げると灰色の空がやけに近く、息苦しい。咳をしながら、あたしは目線を元に戻す。個室は両側に四つずつ並び、向かって右奥のドアが甲高い音を立てていた。蝶番が外れかけていて、ここだけ中が見える。とはいえ白い便座が見えるわけじゃない。薄暗い、もやもやした何かが淀んでいる。

「――、行くぞ！」

斗真とうまの掛け声に合わせて、あたしたちは次々とそこへ飛び込んだ。あたしは斗真の手をしっかりと握り、目をつぶっていた。

鼓膜に圧力がかかる。肺が押し潰されるような感覚。ここは、世界と世界の狭間。

時間にしてほんの数秒後、体を包む空気が変わったのを実感してゆっくりと目をあける。

窓から差し込む陽光の中に白のタイルが浮かび上がった。座り込んでも抵抗ないほど綺麗なタイルに、プリーツのスカートが円形に広がる。太ももの裏側が床にくっついて冷たい。

斗真が、つないだ手を引っ張って立たせてくれた。彼も緊張していたみたいで、てのひらに少し汗をかき、指はこわばっている。

あたしたちはろくに顔を見合わすこともしないで、そばに倒れている由真ゆまちゃんの背を揺すった。ワンピースのセーラー服は裾がふわふわしてやわらかくて、のぞいた華奢な脚をくすぐる。でも、気を失っているみたいで反応はない。

彼女は斗真の三つ違いの妹、あたしと同じ高校一年生だ。兄に対して、なんだかよく理解しがたい、歪んだ情念を持っているようだった。曰く、「兄さんは嫌い。そんな兄さんに群がる女どもも大嫌い」。そうでありながら、むりやりあたしたちについてきた。

「起きないかな？ このまま連れて帰る？」

斗真に訊くと、彼は変な顔をした。どうしてだよ、と質問したあたしに疑問を投げかける顔つきだ。

はからずもあたしたちはしっかりと目を合わせてしまい、慌てて顔をそらす。いまだにつないでいた手も、ぱっと離して背後に隠した。

「えっと、あたしはもう送りとどけてもらったわけだし。斗真と由真ちゃんは帰らなきゃ」

あけっぱなしになっている個室のドアに視線をやろうとすると、斗真の大きな手に遮られた。てのひらには傷跡がたくさんある。小さなもの、大きなもの。

「俺はいちか一花というつもりなんだけど」

「え」

「由真は……家族がいるから、返してやらないとな」

「家族って、斗真の家族でもあるでしょ？」

「由真だけでもいたらいいだろ」

ふたりの家の事情がどんなだとか、あたしは知らない。なにせ、まだ会って数時間もたっていない。

わかつているのは、斗真たちが向こうの世界の住人だということ。あたしは、こっちの人間だということ。

あたしは試験勉強をしにきたこの図書館で、向こうの世界に迷い込んだのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9040y/>

ふたつの世界

2011年12月7日08時57分発行